

書誌から見た昭和時代(戦後)のワイルド  
受容——平井博を中心に——

佐々木 隆

2008年10月  
『日欧比較文化研究』第10号  
日欧比較文化研究会

## 書誌から見た日本ワイルド受容研究——平井博を中心に

佐々木 隆

### プロローグ

日本のワイルド受容研究を進める上で、本間久雄(1886 - 1981)、平井博(1910-1978)、井村君江 (b.1932) の先行研究なしで行うことはできないと言っても過言ではないだろう。昭和 55 年 (1980) 7 月の『オスカー・ワイルド考』(松柏社)における受容史研究の発表を考えるとその日本ワイルド受容研究の金字塔を打ち立てと言ってもよい。こうした業績は井村君江に引き継がれることとなる。ここでは、平井博の日本ワイルド受容研究の研究業績を中心に扱ってみたい。

### 1 平井博の生涯

平井博は明治 43 年(1910)十一月一日熊本市生まれ。以下はおもな学歴と職歴を紹介しておきたい。

#### 学歴

昭和 5 年 (1931)	4 月	弘前高等学校文科甲類入学。
昭和 8 年 (1934)	3 月	同校卒業
昭和 8 年 (1934)	4 月	東京帝国大学文学部イギリス文学科入学
昭和 11 年 (1937)	3 月	同大学卒業
昭和 11 年 (1937)	4 月	東京帝国大学文学部大学院入学
昭和 11 年 (1937)	6 月	英語、国語、漢文科中等教員免許状下付
昭和 12 年 (1938)	3 月	英語、国語科高等教員免許状下付

昭和 12 年 (1938) 4 月 東京帝国大学文学部大学院退学  
昭和 42 年 (1968) 2 月 立正大学より文学博士の称号を  
受ける

## 職歴

昭和 11 年 (1937) 8 月 文部省雇を命ぜれる  
昭和 11 年 (1937) 12 月 国際文化振興会兼務を命ぜれる  
昭和 17 年 (1942) 3 月 福島高等商業学校教授に任ぜら  
る (英語担当)  
昭和 19 年 (1944) 4 月 校名を福島経済専門学校と改称  
昭和 21 年 (1946) 8 月 教職適格者と判定せらる  
昭和 23 年 (1948) 11 月 新制大学設置委員会における審  
査において教授適格者と判定せれる  
昭和 24 年 (1949) 6 月 兼・福島大学教授に補せらる  
学芸学部勤務を命ぜらる  
昭和 25 年 (1950) 4 月 福島大学教授に補せらる  
英語英文学講座担当  
昭和 26 年 (1951) 3 月 公職資格審査の結果適格と判定  
せらる  
昭和 33 年 (1958) 5 月 福島大学付属図書館長に併任せ  
らる  
昭和 34 年 (1959) 1 月 福島大学学芸学部長に併任せら  
る  
昭和 34 年 (1959) 2 月 福島大学付属図書館長併任解除  
昭和 37 年 (1962) 4 月 教育文化視察並に英文学研究の  
為、欧米各国へ出張を命ぜらる (期間 3 ヶ月)  
昭和 40 年 (1965) 10 月 教育職 (一) 一等級十六号俸を  
給する

- 昭和 40 年 (1965) 12 月 福島大学長事務取扱を命ぜらる  
昭和 41 年 (1966) 2 月 右事務取扱を免ぜらる  
昭和 41 年 (1966) 4 月 学部名を教育学部と改称せら<sup>(1)</sup>  
昭和 45 年 (1970) 8 月 福島県文化センター館長となる  
昭和 45 年 (1970) 8 月 福島大学より名誉教授の称号を  
受ける  
昭和 53 年 (1978) 3 月 福島市より市政功労章および教  
育功労章を受ける  
昭和 53 年 (1978) 3 月 2 日 死去  
昭和 53 年 (1978) 3 月 2 日、勲三等瑞宝章<sup>(2)</sup>

以降のことについては詳細は調査中のところもある。なお、研究については以降でまとめて紹介する。

## 2 平井博の研究業績

平井は学生の頃よりワイルド研究に取り組んでいたようである。その後は注釈本の出版、学会誌への投稿、そして、昭和 35 年(1960) 4 月に大著『オスカー・ワイルドの生涯』(松柏社)の出版に至るのである。昭和 42 年(1967)には立正大学に博士論文「オスカー・ワイルドの生涯」を提出し、本間久雄(主査)の審査を受け、文学博士の位が授与された。本論文は昭和 35 年(1960) 4 月に『オスカー・ワイルドの生涯』(松柏社)として発表されている。その後は、日本におけるワイルド書誌及び受容史に関する論文を発表している。平井のおもなワイルド研究業績は以下の通りである。

「オスカー・ワイルドの研究」(『東大文芸』第 1 巻第 1 号、  
1934 年 11 月)

「オスカー・ワイルドの研究」(『東大文芸』第 1 巻第 2

- 号、1935年4月)
- 「オスカー・ワイルドの研究」(『東大文芸』第1巻第3号、1935年10月)
- 「アンドレ・ジイドとオスカー・ワイルド」(『近代文化の諸相』福島聖学校、1948年1月)
- 注釈『Short Stories of Oscar Wilde』(開隆堂、1951年3月)
- 注釈『The Happy Prince and Other Tales』(開隆堂、1951年10月)
- 「オスカー・ワイルドの文体」(『英語教室』第3巻第9号、開隆堂、1951年12月)
- 「Bernard Shaw と Oscar Wilde」(『英文学研究』第28巻第1号、日本英文学会、1952年3月)
- 「Bibliography of the Reference Books on Oscar Wilde」(『福島大学学芸学部論集』第5集、1954年3月)
- 「ワイルドの生誕百年を迎えて」(『英文学研究』第33巻第1号、日本英文学会、1956年7月)
- 『ドリアン・グレイの肖像』(放送劇、NHK、1957年1月)
- 「サロメ考」(『福島大学学芸学部論集』第8集ノ2、1957年3月)
- 「ワイルド芸術論誕生理由」(『北陽芸術』第2号、福島県芸術文化委員会、1958年2月)
- 『オスカー・ワイルドの生涯』松柏社、1960年4月
- 「オスカー・ワイルドの交友」(『北陽芸術』第4号、福島県芸術文化委員会、1961年3月)
- 「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(その1)」(『福島大学学芸学部論集』人文科学、第13集の2、1962年3月)
- 「ワイルドの遍歴」(『北陽芸術』第5号、福島県芸術文化委員

会、1963年1月)

「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(其二)」(『福島大学学芸学部論集』人文科学、第14集の2、1963年3月)

「オスカー・ワイルドをめぐる女性」(『学鏡』第61巻8号、丸善、1964年8月)

「日本に於けるオスカー・ワイルド」(『福島大学学芸学部論集』人文科学、第17集の2、1965年10月)

『オスカー・ワイルド考』松柏社、1980年7月(死後出版)

『からまつ抄』福島民報社、1982年4月(死後出版)

### 3 日本におけるオスカー・ワイルド研究

日本におけるオスカー・ワイルド受容研究は、おもに比較文学的観点からの研究と「受容史」・「書誌」を扱ったものに大別される。ここでは後者の「受容史」・「書誌」を中心に取り上げていく中で、平井博の業績について考察していきたい。

作家や芸術家がどのように研究されてきたかはいわゆる個人書誌を見ればはっきりする。ワイルドについてはワイルド書誌を見れば明らかとなる。まず、代表的な外国のワイルド書誌5冊を紹介しておきたい。

Mason, Stuart. *Bibliography of Oscar Wilde*. T. Werner Laurie, 1914.

Mikhail, E. H. *Oscar Wilde: An Annotated Bibliography of Criticism*. Macmillan, 1978.

Small, Ian. *Oscar Wilde Revalued*. ELT Press, 1993.

Mikolyzk, Thomas A. *Oscar Wilde: An Annotated Bibliography*. Greenwood, 1993.

この中で Mikhail, E. H. の *Oscar Wilde: An Annotated Bibliography of Criticism* (1978)だけが日本の文献を取り上げている。

Hirai, Hiroshi, *The Life of Oscar Wilde*, 4th edition (Tokyo: Shohakusha, 1971) p.41

Hirai, Hiroshi, 'Bernard Shaw and Oscar Wilde', *Eibungaku Kenkyu* (Tokyo), XXVIII 81952) 42-58. p.145

Imura, Kimie, 'On *Salomé* by Oscar Wilde: Its Background', *Studies in Literature and Arts, Tsurumi Women's College, College*, X(1972) 25-47. p.148

以上の3点を取り上げられている。どのような経緯を経て掲載されているかははっきりしないが、平井の業績が2点取り上げられていることは事実である。書誌については、もちろん、これ以外にもカタログも重要な資料である。では日本ではどうであろうか。

日本におけるこれまでの「ワイルド書誌」をまとめたものは平井博、井村君江、佐々木隆(b.1960)のワイルド書誌が代表となる。これに先行するものとしては、昭和9年(1934)5月の本間久雄『英国近世唯美主義の研究』(東京堂)の「参考書目の事——後記——」として、英語文献を本格的に紹介したものがある。この参考書目では Walter Hamilton の *The Aesthetic Movement in England*, Thomas F. Plowman の *The Aesthetes*, Stuart Mason の *Oscar Wilde and The Aesthetic Movement*, Holman Hunt の *Pre-Raphaelitism and The Pre-Raphaelite Brotherhood* (2 vols.)等が紹介されている。本間は単に著者、書名だけを整理したのではなく、コメントを加えたことで、充実度は増している。本間は昭和3年(1928)よりヨーロッパ留学中に Stuart Mason が編集した新聞・雑誌の切抜帖やワイ

ルド自筆書簡を含む貴重な文献を入手し、現在は本間コレクションとして、実践女子大学図書館に所蔵されている。経緯については、昭和4年(1929)12月の本間久雄『滞欧印象記』(東京堂)の「ワイルド研究資料蒐集について」に記されている。

ワイルドの英語文献をまとめたものとしては、昭和29年(1954)3月の平井博「*Bibliography of the Reference Books on Oscar Wilde*」(『福島大学学芸学部論集』第5集)もある。平井はその「はしがき」の中で次のように述べている。

日本に居て外国文学を研究するということが如何に労多くして功少いものであるかはそれをやつて見るまでは解らない。外国の作家の作品を二つ三つ読んで、「やれ“ふつくらした描写”だとか“あたたかい感じ”だとかいった様ば座布団の批評の様な」無意味な言葉を吐く事なら事は簡単だ。しかし作家にしる作品にしる本場の水準に追いついた研究なり調査なりをふまえて、権威のあることをいうことは容易ならぬ事である。

第一自分の研究対象としている事とその本国でどの程度まで研究済であるかという、その足跡を見きわめて、自分がそこまで達する事だつて先づ大事業である。私が *Oscar Wilde* の研究を始めて20年以上になるがやつと最近おぼろげながら過去の人々の研究に追いついたという所で、自分の研究はやつとこれから始まる所である。<sup>(3)</sup>

日本語の文献は11冊が取り上げられているに過ぎない。いずれも大正・昭和に入ってからのものである。著者、書名、出版社、出版年のみを掲載順で紹介すると以下の通りである。

深沢正策『オスカー・ワイルド その人と時代』万里閣、

## 1951年

本間久雄『唯美主義者オスカー・ワイルド』春秋社、1923年

本間久雄『滞欧印象記』東京堂、1929年

本間久雄『英国近世唯美主義の研究』東京堂、1934年

益田道三『近代唯美思潮研究』昭森社、1941年

大塚保治『文芸思潮論』岩波書店、1930年

大塚宣也訳／H. ジャクソン『近代英吉利文学論』肇書房、

## 1942年

高橋泰『O. W. 』研究社、1935年

和気律次郎訳『オスカー・ワイルド』春陽堂、1913年

矢野峰人『近代文学史』第一書房、1929年

矢野峰人『近英文芸批評史』全国書房、1943年

全体の文献数 154 のうち、日本語文献はこの 11 冊だけである。平井は「あとがき」に以下のように記している。

私はこの参考文献に並行して明治末期から第二次大戦前までの日本に於ける Oscar Wilde の紹介、研究、翻訳、翻刻書の書誌を編集する目的で多数の資料を蒐集していたが、その一切は今度の戦災で家屋、家財と共に焼失してしまった。幸にそれを簡単に記録したカードのみが危く焼失からまぬかれたので機会があれば発表するつもりである。それによれば、明治、大正にかけて Wilde が日本に移植され育つて行った様子を年代順に明らかにする事が出来ると思う。それは雑誌の論文に到るまで網羅しているから多数の紙幅を要するので今回は割愛せざるを得なかつたのである。(4)

この Bibliography は昭和 35 年(1960)4 月に発表された『オスカー・

ワイルドの生涯』(松柏社)に所収されている。

実質的な意味での「ワイルド書誌」は、昭和 37 年(1962)3 月の平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(その 1)」(『福島大学学芸学部論集』第 13 集の 2[人文科学])、昭和 38 年(1963)3 月の平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(其二)」(『福島大学学芸学部論集』第 14 集の 2[人文科学])として発表され、その後、昭和 55 年(1980)7 月の『オスカー・ワイルド考』(松柏社)に所収されたワイルド書誌である。平井は「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(その 1)」の「はしがき」で次のように述べている。

ワイルド研究の一端として日本に於けるワイルドの書誌を編集しておき度いという事は私の念願であった。外国の文学をただ単に外国の文学として眺めるのではなく、それが日本の文学に如何なる経路を通り輸入され、どの様に消化され、更にどんな影響を及ぼしているのかを知る事は外国文学研究者にとっては見落とす事の出来ない研究要素であるからである。<sup>(5)</sup>

平井は明治・大正時代のワイルド書誌を発表した。特にコメントを加えたことでその書誌情報はかなり充実したものとなっている。前述の本間の「参考書目」と形式が同じであるが、本間は洋書、平井は和書の書誌である。平井は後年、オスカー・ワイルドの研究で文学博士の学位を取得しているが、その時の論文の審査は本間久雄が務めている。

## エピローグ

平井博にはワイルド受容研究以外にも多くの業績があるが、一連の「書誌から見た日本ワイルド受容」から、特にワイルド書誌をまとめた業績をここでは取り上げた。平井がこうした書誌を作成でき

た背景には本間久雄の存在を忘れることはできない。日本ワイルド受容研究史の回顧では本間は必ず取り上げられる一方、平井博の名前はそれに比して取り上げられる程度は少ないかもしれないが、平井が海外のワイルド研究者から注目されていたことは、E.H.Mikhail の *Oscar Wilde: An Annotated Bibliography of Criticism* (1978) に掲載されていたことから明らかである。

日本ワイルド受容研究は、明治・大正は平井によりまとめられ、その後昭和戦前までは井村君江によってまとめられた。その後、昭和戦後以降については、平成 19 年 3 月までの資料をまとめた佐々木隆『日本ワイルド総覧（増補版）』（イーコン）により、その精神は引き継がれた。本間久雄と共に、今後は日本ワイルド書誌における平井博の再評価の必要性が高まるのである。

## 資料

Mikhail, E. H. *Oscar Wilde: An Annotated Bibliography of Criticism*. (Macmillan, 1978)

## 注

- (1) 平井博の学歴・職歴については博士論文提出時における履歴書による（昭和 41 年 6 月 1 日付のものによる）
- (2) 「平井博・略年表」（『エッセイ集 からまつ抄』福島民報社、1982 年 4 月），p.303.
- (3) 平井博「Bibliography of the Reference Books on Oscar Wilde」（『福島大学学芸学部論集』第 5 集、1954 年 3 月），p.15.
- (4) Ibid., p.25.
- (5) 平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌（その 1）」（『福島大学学芸学部論集』第 13 集の 2 [人文科学]、1962 年 3 月），

p.59.

キーワード：ワイルド、平井博

\*本稿執筆にあたり、財団法人福島県文化振興事業団、福島県文化センター・事業グループの佐藤貴司氏には有益な情報を提供して戴きました。紙面を借りて深く御礼申し上げます。